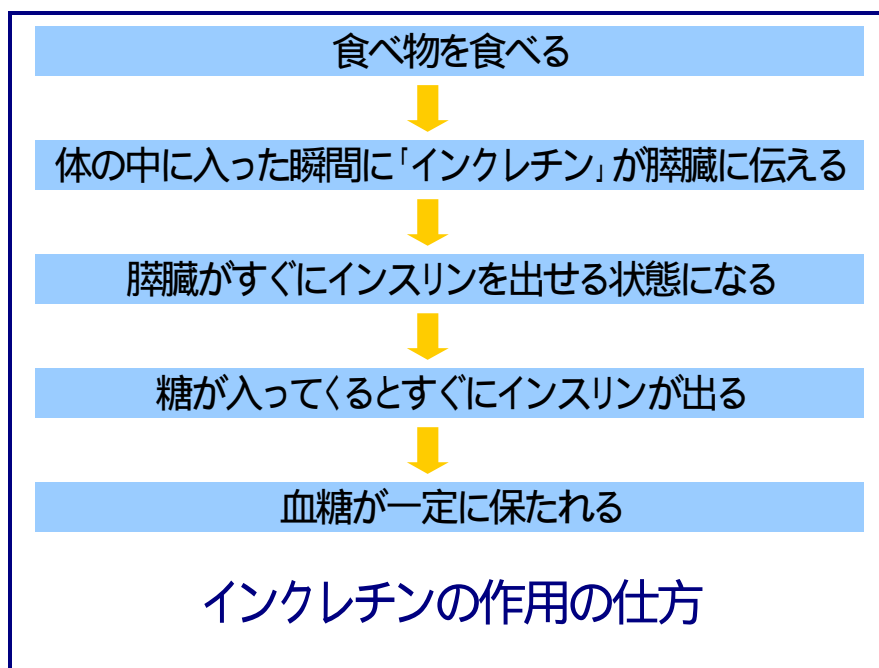


糖尿病の新しい薬

糖尿病瓦版

「インクレチン」という今までになかったホルモンに関連した薬についてご紹介させていただきます。インクレチンとは食事摂取に伴い消化管から分泌されるホルモンのことです。砂漠に生息するアメリカドクトカゲがたくさんのエサを与えた後でも血糖値がほとんど変わらないことに注目され、唾液から発見されました。また、人間の消化管から発見されたインクレチンを真似してつくられた物質からも新しい薬が開発されました。

簡単にインクレチンの作用を説明すると下の図のようになります。つまり、インクレチンとは「お知らせ物質」のようなもので、血液の中にいつもある状態にしておくと、膵臓は即座にインスリンを出せる状態になり、血糖が高くなるとすぐにインスリンが出るようになります。



人間もインクレチンを作っていますがすぐに分解されてしまうため、効果がなくなってしまいます。そこで、分解されないようにする内服薬や、直接インクレチンを注射する薬ができました。その薬の特徴としては、

- 血糖が高い時にのみ作用するため低血糖が起きにくい
- 食後の高血糖が状態が短くなる
- 投与回数が少ない（1日1～2回）
- 体重の変化がない

などがあります。



ジャヌビア



ビクトーザ



エクア



ネシーナ

インクレチンに関連する薬にはこんな薬があります。

最後にインクレチンに関連する薬はどれも良い薬ですが、1型糖尿病の方は使用できなかったり、インスリンがあまり出ていない人には効果不十分な場合もあり、効果には個人差がありますので、一度主治医へ確認して下さい。

平成二十三年二月版（隔月発行）
春日井市民病院
糖尿病療養指導グループ発行

薬剤師
服部
田中
大岩



